

令和2年度

教育方針

～「丹波篠山の教育」説明原稿～

令和2年2月19日

丹波篠山市教育委員会

はじめに

令和2年度の教育方針を、お手元に配付しています「丹波篠山の教育」を基にして、説明いたします。

まず、1ページ「はじめに」についてです。

昨年のラグビーワールドカップでは、日本代表チームの活躍もあり、日本中が沸き立ちました。ラグビーという限られたスポーツの世界ではあったのですが、身体を鍛え上げ、仲間を信じ切り、ぶつかり合って闘っている人間の凄さに私も心が躍りました。

さて、本年度から第3期丹波篠山きらめき教育プランの推進、新たな学習指導要領による学校教育が小学校で、中学校は来年度から始まります。これまで学力と言えば、点数で表されるような「見える学力」だけを指すことがありましたが、これからは「何ができるようになるか」資質・能力の向上をめざして実践していくこととなります。

- 1 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
 - 2 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」
 - 3 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」
- これらが資質・能力の三つの柱となります。

また、これからの教育は、「社会のニーズに応える」という面と、「社会をより良きものにする」という目標を掲げて展開していくことになると考えます。それは、国連が掲げた持続可能な開発目標（SDGs：エスディーゼズ）に見られるように、この惑星に住む一員としての人類が進むべき道を、皆が探求していくことになるからです。

それでは、第3期の丹波篠山市教育振興基本計画「丹波篠山きらめき教育プラン」に基づく5つの基本方向から教育施策を説明いたします。

2ページ

施策の基本方向1 子どもの根っこを育てる乳幼児教育の推進

1-1 “子育ていちばん”に向けて

「朝日とともに目覚める」、「四季を感じ取れる」、「自然の中で夢中に遊ぶ」、この3つの生活習慣づくりを柱として、乳幼児期のあるべき姿をめざします。そのために、まずは保育者が地域の自然等を把握するために、教材の開発を手がけるなど、保育者の資質向上に取り組みます。

就学前の保育環境を整えるため、保育園舎及び幼稚園舎の長寿命化計画を策定するとともに、篠山幼稚園児、たまみず幼稚園児及び岡野幼稚園児を対象にした預かり保育施設1ヵ所を令和3年4月から開設できるよう準備をすすめます。

3 ページ 1-2 子育ての根っこを育てる環境づくり

子どもたちが夢をもって健全に育つには、家族の温かい雰囲気と深い信頼関係の中で、基本的な生活習慣づくり、自立心の育成、心身の調和のとれた発達を促すことが大切です。「ふた葉プロジェクト」として「眠育、食育、遊び」を総合的に推進し、家庭と自然体験の重要性を共有していきながら、子育て環境の確立に取り組みます。

具体策としては、自然への興味付けや、家庭での自然体験の充実を目的に、かやのみと大山幼稚園で実施している「どんぐりマーケット」を他の幼稚園でも取り組めるよう検討します。

また、令和2年度は、「公立・私立全ての保育園・幼稚園・こども園では、丹波篠山の自然を活かしながら市民みんなで子どもたちの育ちを支えている。」このことを文字とイラストで分かりやすく記した「丹波篠山市幼児教育コンセプトブック」を作成し、保育者・保護者・地域住民が共有できるようにします。

5 ページ 1-3 乳幼児教育の充実

乳幼児期は、子どもたちが心豊かにたくましく生きる力を身につける保育・教育環境を整える必要があります。丹波篠山ならではの自然を最大限に活かしながら、体幹づくりを意識した保育や、粘土遊び、水遊び、砂遊び、泥

遊びなどにより諸感覚を発達させる保育・教育に取り組みます。

6 ページ 1-4 子ども・子育て支援の体制づくり

保護者が子育てについての責任を果たせるよう、地域社会が保護者に寄り添い、子どもの成長、親自身の成長に対し、喜びや生きがいを感じる体制づくりを進めます。また、子どもが幸せに育つには、保護者が幸せであることが何より大切であるため、子育てにおける保護者の心理的負担を軽減するとともに、子育ての楽しさを実感できるまちづくりを進めます。

取組として、引き続き、子育て相談の充実、病児保育事業の実施、放課後児童健全育成事業の充実、幼稚園預かり保育の充実を実施します。

7 ページ

施策の基本方向2 **生きる力を培い創造性を伸ばす教育の推進**

2-1 確かな学力の確立

グローバル化の一層の進展に、ICT・AI等の情報技術の急速な進展が加わり、変化の激しい予測困難な時代を迎えています。このような社会において、子どもたちが自立して活動していくために、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得、それらを活用して課題解決を図る思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力・人間性等を身につける取組を進めます。

学力を確実に定着させていくために、「全国学力・学習状況調査」に加えて「丹波篠山市学力・生活習慣状況調査」を継続して実施します。これらの調査をもとに、「確かな学力」やその基礎となる「4つの力」“ゆめ力・自分力・つながり力・学び力”の状況を継続して把握するとともに分析を行い、「一人も見捨てない」を踏まえた、効果的な指導方法の検討、普及、啓発を行います。

また、**8 ページ** 学習プリント配信システム等を活用し、家庭と連携して児童生徒の主体的な学習習慣を育成します。

9 ページ 情報活用能力については、児童生徒が情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していく力を育むため、小学校におけるプログラミング教育の推進や、令和2年度からは、遠隔教育システムを導入し、多様な学習環境や個に応じた指導方法の工夫を図ります。このシステムを活用して他校の児童生徒と一緒に授業を行うことにより、様々な意見や考えを共有し、表現力などの資質・能力を育成します。

10 ページ 外国語教育の充実では、外国語指導助手（ALT）や小学校外国語活動指導補助員（JTE）との外国語によるふれあいや対話を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。

イングリッシュ・デイ・キャンプは、令和2年度から始まる小学校高学年での外国語の教科化に向け、小学生が英語に慣れ親しめるように企画した事業です。初めて実施した令和元年度は、定員の30人を超える応募があり、関心の高さがうかがえました。アンケートには、「ゲームやクッキングでALTの先生や仲間と会話ができて嬉しかった」、「英語が好きになれそう」などの意見が多く、英語に親しむ良い機会となったと考えています。令和2年度も引き続き実施し、英語による対話や様々な活動を通して、子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図ります。

12 ページ 2-2 豊かなこころの育成

子どもたちが感性を働かせて豊かに生活していくために、発達段階、一人一人の個性、生活環境などに応じて、豊かな情操や道徳心を培っていきます。そして、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、人間関係を築く力、他者を思いやる心、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度も養っていきます。

そのため、子どもたちにボランティア活動への参加を促すなど、実社会の中で自分の役割を果たしながら、生き方を考えたり見つけたりすることができるように、地域人材の活用や家庭・学校・地域が一体となった事業を展開していきます。

13ページ 情報化が急速に進む現代社会において、子どもたちにとって ICT 機器がより身近な存在となったことから、児童生徒が有害情報に触れたり、ネット犯罪といったトラブルに巻き込まれたりする危険性が増しています。情報モラル教育を推進し、児童生徒が自ら判断する力やインターネットを適切に利用する力を育成するとともに、家庭や地域、青少年協議会や PTA 協議会などと連携し、安全安心なインターネット利用の普及啓発を進めます。

16ページ 2-3 健やかな体の育成

生活環境が急激に変化する社会において子どもたちが、生涯を通じて活力をもって創造的に活動していくためには、スポーツに親しみ継続的に運動ができる資質・能力の育成を図るとともに、健康で安全な生活を送るための基礎を培い、心身の調和的発達を図ることが大切です。

「丹波篠山市小・特別支援学校陸上記録会」や「体力・運動能力調査」の実施を通して、運動能力の向上と体力づくりへの関心を高め、生涯にわたりスポーツを楽しもうとする意欲の向上を図ります。

17ページ 平成29年度から取り組んでいる「部活動支援事業」は、専門的な知識と技能を有する地域の指導者が「部活動支援員」として活躍いただくもので、令和元年度は市内5中学で延べ15名の方に協力いただいています。令和2年度は、従来からの部活動支援員に加え、新たに「会計年度任用職員の部活動支援員」を任用することにより、技術指導に加え試合や大会などを単独で引率できるようになります。これにより、中学校における部活動指導体制の充実と、部活動を担当する教職員の業務の軽減を図ります。

19ページ 2-4 社会的自立に向けたキャリア形成の支援

子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するために、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」を育成します。

キャリア形成支援事業「夢プラン」は、進路を考え始める市内中学2年生と保護者を対象に自らの生き方を考える機会として実施している事業です。

令和元年度も、市内で活躍する大人の経験を子どもたちに伝える活動をされている一般社団法人BEETの方々に協力いただき、市内三つそれぞれの高等学校から学校の紹介、続いて、中学生とのパネルディスカッションを行いました。中学生からはこんな質問がありました。「行きたい高校を決めたとき、既に高校卒業後の進路や進学したい大学は考えていたのですか。」それに対して、ある高校生は「中学生のとき、ぼんやりした夢は持っていた。しかし、高校生活を送る中でのいろいろな経験から、違う夢を持つようになり、今はその夢を実現するために頑張っている」と返答しました。こうした高校生の実体験を直接聞くことで、とても活発なやり取りとなり、中学生や保護者にとって、また高校生にとっても、今後を考えるよき時間となりました。

4回目となる令和2年度も、子どもたちが主体的に進路を選択し、決定できる能力や態度を育成する機会として引き続き取り組みます。

21ページ 2-5 特別支援教育の充実

共生社会の実現に向け、すべての学校や学級に、発達障害を含めた障がいのある子どもたちが在籍することを想定して、一人一人の教育的ニーズを把握し、自立と社会参加を見据えたキャリア形成に向け、適切な教育的支援を行います。

令和元年度に開設した早期発達支援室では、発達障害及び知的障害のある幼児に対し、適切な早期支援を行い、個々の成長発達及び円滑な就学期への移行を促します。

その他の取組としては、**22ページ** 引き続き篠山養護学校を特別支援教育のセンター的な役割を担う学校として位置づけ、新たな教育課題を見据え、教職員の専門性を高めます。各学校園においては、障がいのある幼児・児童・生徒にとっての社会的障壁を取り除くために必要な合理的配慮の提供を進めます。また、特別な支援が必要な子どもを早期発見・早期支援するため、

「発達支援チーム」による巡回相談や、「個別の教育支援計画（サポートファイル）」を活用した支援に取り組みます。

24 ページ

施策の基本方向3 **子どもの学びを支える環境づくりの推進**

3-1 安全安心で質の高い学習環境の整備

子どもたちが安心して学校生活を送るためには、安全で質の高い学習環境の整備が重要です。自然災害や交通事故、犯罪など、新たな安全上の課題が発生している状況を踏まえ、家庭・地域・関係機関と連携しながら安全教育を継続的・計画的に実施し、訓練をとおして実践力を向上させ、安全安心な学校園づくりを進めます。

防犯カメラについては、令和元年度までに、全てのこども園、小中学校、そして、小学校との共用も含め幼稚園8園は設置済みです。令和2年度は3幼稚園、4保育園に防犯カメラを設置します。

また、児童生徒の熱中症予防など健康面への配慮や、意欲を持って学べる学習環境への改善などを図るため、全小中学校の特別教室に空調設備を整備します。また、学校施設の長寿命化計画を策定します。

26 ページ スクールバスの更新は、計画に基づき、今田小学校1台、篠山養護学校1台を新しくします。

27 ページ 3-2 地域とともにある学校

子どもたちの豊かな学びを実現するためには、学習環境を整備するとともに、教育の原点である家庭の教育力や子どもを見守り支える地域の教育力を高めることが重要です。子どもが安心できる家庭教育に関する環境づくり、地域全体で家庭教育を支える仕組みづくりを支援し、学校・家庭・地域が連携・協働した社会総掛かりの教育を推進します。

平成29年度から市内全ての学校に「学校運営協議会」を設置し、コミュニティ・スクールを推進しています。地域住民や保護者などで構成された学

校運営協議会では、学校運営方針の承認をはじめ、連携事業の企画・運営など、その機能は実践を重ねるにつれ向上しつつあります。大山小学校児童が地域の方とともに栽培した「天内芋」が、全国学校給食甲子園優勝献立に使用され、「地域との連携、児童との関わりかたも良い」と評されるなど、連携事業が大きな成果となっています。今後においても、より主体的な学校運営や効果的な教育活動の実現に向けて熟議を重ねていきます。

28ページ 「ひょうご放課後プラン」は、放課後や休日に小学校などの施設を活用し、地域住民の参画を得て、遊びやスポーツを通して地域で子どもを育む事業です。令和2年度は、味間、西紀、岡野の3小学校区に加え、新たに城東小学校区で取組を始めます。

子どもの居場所づくり推進事業については、引き続き「通学合宿」や「トライしよう DAY」に取り組み、地域住民との関わりから、子どもたちのコミュニケーション能力、豊かな人間性や社会性を育むとともに、地域の教育力の向上もめざします。

29ページ 3-3 家庭の教育力の向上

家庭、学校、地域が一体となり、次世代を担う子どもたちの健全育成を共に考える機会や、安心して子育てができる環境づくりに向けた情報交換・仲間づくりの機会を提供します。

PTCA フォーラムは、地域における青少年育成に関する事例発表などを通じ、地域ぐるみで子どもたちを育てることの大切さを再認識し、思いやりと郷土愛を持った子どもの育成をめざします。

また、子育てをする親が、必要な知識を学び、ともに助け合い、仲間づくりができるよう、親子の絆プログラム「赤ちゃんがきた！」と「きょうだいが生まれた！」の講座を開催します。この講座は、転入直後や市内に知り合いが全くいない親にとって出会いの場ともなっています。

また、子どもたちが安心して生活を送ることができるよう、地域と連携して家庭教育の大切さなどを学ぶ講演会の開催などの情報を提供します。

30ページ 3-4 教職員の資質能力の向上

教職員には、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質・能力を、生涯にわたって高めていくことのできる力が必要です。また、変化の激しい社会を生き抜いていく子どもたちを育成していくためには、教職員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみとり、その時々状況に応じた適切な学びを提供していくことが求められます。教職員は常に探究心や学び続ける意識を持つとともに、情報を適切に収集・選択・活用する能力や知識を有機的に結びつける力が必要です。

32ページ その取組の一つとして、令和2年4月に、「丹波篠山市教育研究所」を設置し、「調査及び研究に関すること」、「資質・能力の向上に関すること」「教育相談及び育成支援に関すること」など、本市における学校園教育の一層の充実を図るための事業を推進します。

また、教職員の勤務時間適正化と業務の効率化の推進については、教職員一人一人がタイムマネジメントを意識し、計画的に業務改善に努めるなど、学校組織をあげて取り組みます。令和2年度は、保健関係業務の電子化と統一化を図ります。

33ページ 3-5 保幼小中高大の連携

保育園や幼稚園、こども園から小学校、小学校から中学校、中学校から高等学校や大学などの上級学校への移行には連続性があり、キャリア教育上の連携は必要不可欠です。学びと育ちの連続性を重視し、教職員等による情報交換を行うなど連携を強化し、発達段階に応じたキャリア形成を支援します。

34ページ

施策の基本方向4 人生100年時代を豊かに生きる学びの推進

4-1 主体的に生きるための学びと場の充実

「人生100年時代」を見据え、すべての人が自らの人生を設計し、学び続け、学んだことをいかして活動できる社会を形成することが求められてい

ます。市民一人一人が生涯を通じて生きがいを持ち、様々な学びの機会を得ることや、社会の一員とし必要な学びに取り組み、自らが暮らす地域の課題を協働して解決していくことは、活力に満ちた社会の形成に不可欠なものであることから、ライフステージに応じた学習機会の創出に努めます。

まず、図書館は「図書館ビジョン」に基づき、ボランティア等との協働によってあらゆる世代に応じた図書館事業を推進します。

35ページ 市民センター図書コーナーの職員従事時間を延長し、予約・リクエストの受付やレファレンスサービスの提供など図書館サービスの充実を図ります。また、中高生などの図書館利用の環境を整えるため、学生を対象とした学習スペースを設置します。

36ページ 高齢者大学は、高齢者が生きがいを持って学ぶことができるよう受講生のニーズに沿った講座内容をより充実させます。全学園で小学生たちとともに学ぶ「オープン講座」も引き続き実施し、世代間交流を支援します。

38ページ 「丹波篠山映像（ええぞ〜）祭」は、令和2年2月2日に「丹波篠山ビデオ大賞」をリニューアルして開催しました。ドローンのフライトシミュレーターや360度映像の体験ブースなどを新たに取り入れ、家族連れなどで賑わいました。市民が映像に親しみ、気軽に楽しめ、映像づくりに興味を持つきっかけにつながったと考えます。令和2年度も、映像を通して、日常にある豊かさに気づき、生きる力、人のつながり、心の豊かさを育むことを目的に開催します。

丹波篠山市史編さん事業は、令和10年度的全編刊行を目途に計画的な編さん作業を進めます。令和2年度は、神戸大学と連携し、丹波篠山市史編さん委員会など市史編さんに必要な委員会を立ち上げます。また、丹波篠山に
関係する古文書や美術品などの各種資料を調査・収集や、その保存整理作業
を担う人材育成など、適切かつ継続的な編さん作業を行う体制をつくります。

39ページ 4-2 スポーツの推進

スポーツを通じて楽しさや感動を分かち合い、一人一人が健康で、いきいきと暮らす社会の実現に向け、スポーツ団体と連携・協働したスポーツ環境の整備・充実に取り組みます。

スポーツ推進委員によるスポーツの普及・啓発や第41回目となる丹波篠山ABCマラソンを引き続き開催します。

令和2年5月25日の夜に、東京2020オリンピック聖火リレーが丹波篠山市にやってきます。篠山中学校がスタート、篠山城跡がゴール地となり、三の丸広場ではセレブレーションイベントを実施します。オリンピックへの高揚感や期待感が高まる貴重なイベントを、スポーツ活動全般に対する機運を高める絶好の機会とし、円滑な運営を図ります。

41ページ 4-3 文化財と町並みの保存と活用

歴史文化を活かしたまちづくりをさらに推進するため、活性化の核となる国指定史跡の整備などと町並み保存と活用を連動させ、地域住民主体の取組を継続して推進します。

史跡篠山城跡は「篠山城跡整備基本計画」に基づき二の丸南面の高石垣の修理を、史跡八上城跡は、主郭部及び登山道の管理と整備を行い、丹波篠山市の城跡の景観整備に努めます。

重要伝統的建造物群保存地区である篠山地区と福住地区では、令和2年度も計6件の保存修理を進めます。そして、令和2年5月20日から3日間にわたり、全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会を本市で開催し、丹波篠山市のまちなみ景観と保存の取組を全国に発信します。大会は全国120ヵ所の保存地区から約350名の方が来訪される予定です。地域住民と協働し、開催に向けての準備と円滑な大会運営を行います。

令和元年度から取り組んでいる「文化財保存活用地域計画」を、令和2年度に策定します。策定した計画は、文化庁の認定を受けることで、今後においてさらに歴史文化を活かしたまちづくりを推進することができます。

4 2 ページ 4-4 文化・芸術の振興

篠山城大書院、歴史美術館、青山歴史村、武家屋敷安間家史料館、これら文化施設や、田園交響ホールの特徴を生かし、丹波篠山市の歴史文化・芸術の発信拠点としての役割を果たします。

歴史文化施設4館は、老朽化した施設の修理を計画的に進めています。令和2年度は、篠山城大書院雨戸修繕工事を実施します。

16回目となる丹波篠山市展は、11月15日～23日の9日間、丹波篠山市民センターで開催する予定です。令和元年度から始めた暖簾などによる会場内外の装飾アピールは、来場者約200人増の一助となりました。芸術文化に対する関心や理解を深めるため、本年度も多くの市民に会場いただけるよう引き続き取り組みます。

交響ホールの主催事業は、「佐渡裕プロデュースオペラ“ラ・ボエーム”ハイライトコンサート」、「古澤巖コンサート」、「桂文珍ふるさと独演会」、「キュウソネコカミ コンサート」、「夏井いつき句会ライブ」など、子どもから大人まで誰もが楽しめる11公演を開催するほか、市民自らが企画する市民企画事業として、「大阪桐蔭高校吹奏楽部コンサート」など2公演の開催を支援します。

43ページ 田園交響ホールは、文化芸術を通じて人と人が集い「交流」できる拠点です。ロビーのオープンスペース化なども検討し、利用促進につなげます。また、市道大手線無電柱化完成に伴い、ホール西庭園の美化に一層努め、ホール利用者や市民が優れた歴史的景観と丹波篠山の伝統文化を体験できるエリアとして活用を図ります。

4 5 ページ 4-5 自然遺産に学ぶ教育の充実

地域を担う人材の育成を考える場合、「地域を知る」ことが欠かせません。市内に数多く点在する地域資源を教材として活用し、学校教育・社会教育の連携を積極的に行い、学習機会の提供・充実を図ります。

体験学習の拠点、調査研究施設としての「太古の生きもの館」では、「丹

波地域恐竜化石フィールドミュージアム構想」に基づき、丹波市や人と自然の博物館と連携して、化石発掘体験イベントや市内全小学校を対象とした校外学習プログラムを実施します。また、宮田の重点保護区域も小中学生の体験学習の場としての活用を推進します。発掘体験イベントや校外学習を繰り返し行うことにより、化石石割発掘などの次世代市民ボランティアの育成に繋がるよう取り組みます。

46 ページ

施策の基本方向5 郷土を愛し誇りに思う人材育成の推進

5-1 ふるさと丹波篠山を愛する心の育成

郷土を愛し、人々が丹波篠山に定着する施策を進めています。歴史的・文化的な共同体としての郷土を心から大切に思い、郷土の発展を願う心情を持ち、それに寄与する姿勢を身に付けるよう取り組みます。

郷土を知る取組では、児童生徒が校区の名所旧跡、自然、産業などにふれることを通して、ふるさとへの誇りと愛着心を育みます。また、ボランティア活動や、連を組んでデカンショ祭に参加するなど、地域の行事に参加することを通じて「地域とともにある学校づくり」を推進します。

47 ページ 伝統文化の魅力を紹介する「丹波ささやま市民文化講座」、魅力を再発見する「丹波ささやまおもしろゼミナール」、古文書に親しみながら歴史を学ぶ「古文書入門講座」は、引き続き実施します。

48 ページ 「郷土味学講座」は、郷土料理の継承者の育成が目標です。テキストは、平成28年度に作成した郷土料理レシピ集「よろしゅうおあがり」を活用し、普及・啓発を進めています。「よろしゅうおあがり」第2弾を令和3年度に販売する計画を立てており、令和2年度は年間を通じて製作に取り組みます。

49 ページ 5-2 学校給食の充実と食育の推進

学校給食での献立の充実を図り、子どもたちが食に関する正しい知識と望

ましい食習慣を身につけるため、「生きた教材」である学校給食を活用した食育推進を継続的に取り組みます。

丹波篠山産コシヒカリ、地元食材を活用した学校給食を充実させるため、主食となる米飯や米粉には、丹波篠山産コシヒカリを100%使用します。「篠山まるごと丼」や「ぼたん汁」といったふるさと献立を取り入れるほか、「丹波篠山茶週間」では、毎日一品、丹波篠山茶を使用した献立を提供します。特産物を活用した新たな献立やジビエについても研究を続けます。

50ページ 全国学校給食甲子園の優勝は、毎日学校給食を食べている子どもたちや市民にも大きな誇りとなりました。この優勝献立は、「地域と地場産物を活かした献立が食育に結びついている」と評価されたことから、今後においても日本一の給食を維持できるよう、学校給食センター運営委員会の委員に新たに食や農業に関わる方を公募し、関係機関、団体の協力を得ながら、子どもたちが給食の時間を楽しみにする献立の工夫に取り組みます。

また、優勝献立のレシピは、わかりやすい方法でホームページに掲載するなど、市民の皆さんにも広く活用していただけるよう周知します。

公民館事業の「かぞく de おいしんぼクッキング」は、親子がクッキングをとおして料理の楽しさや食事の大切さを学ぶことなどを目的に、引き続き開催します。

51ページ

市民に開かれた教育行政をめざして

私たちはより快適な生活を求め、また、リスクも取り除いてくれる道具なども開発し続けてきました。さらにこれからは、もっと便利なロボット、AIなどと伴に生きていくことになるだろうと思います。しかしながら、そうした“モノ”に依存する生活を追い求めるだけでなく、本来人間が持っている能力を引き出していくことも大切だと私は考えています。

ITが発展し、スマホが生活必需品になり、SNSやメールによる効率的なデジタルのコミュニケーションが広まり、ネットのコミュニケーションに

は、面と向かっては言いにくい本心を明かせる安全地帯のような側面があります。ところが、顔と顔を付き合わせ、互いが発した言葉から、その時の肉声、しぐさ、表情、肌触りまで、一つ一つが意味を補い、あいまいさを持つてつながるアナログのコミュニケーションでないと得られない実感が、人が生きていくうえでは必要だと考えているからです。

そこで、私は、そうした実感を伴う人間関係を「便利さ」というものに、譲ってしまわないように、学ぶことを大切にしたいと考えています。バラバラだった知識が結びついた時、私たちは学ぶことの意味の深さを体験していきます。よりよい社会をつくるには、そこに生きる一人一人が学び続け「自分をよりよく変える」、その総和のことではないかと考えています。

こうした教育は、手間暇がかかりますが、夢見ながら耕し、あしたに向かう種を蒔くため、開かれた教育行政をめざしていきたいと考えます。